

第 35 回全国保健師長会代議員総会議事録

平成 25 年 11 月 2 日、全国から代議員 131 名が参集し、鳥取県鳥取市白兔会館において第 35 回全国保健師長会代議員総会が開催されたので概要を報告する。

◆会長挨拶要旨

会員拡大の取り組みへの謝意、東日本大震災の支援活動に対して厚生労働大臣から感謝状が授与されたことを報告された。また、「地域保健対策の推進に関する基本指針」の改正及び「地域における保健師の保健活動指針」の見直しを踏まえ、時代のニーズに合った積極的な活動をしていくことを表明された。

◆来賓祝辞

厚生労働省健康局長代理山田敏充保健指導室長をはじめ、鳥取県知事代理松田佐恵子福祉保健部長、鳥取市長代理深澤義彦副市長、全国保健師長会代理宮島里美長野県飯田保健福祉事務所参事、日本看護協会代理中板育美常任理事から、東日本大震災に関わる保健師活動への評価と今後の活動に対する期待の言葉をいただいた。

◆基調講演

厚生労働省健康局がん対策・健康増進課保健指導室長山田敏充氏から、「地域保健をめぐる国の動向とリーダーに期待すること」と題して講演をいただいた。

今年 4 月 19 日に出された「地域における保健師の保健活動に関する指針」について、局長通知に一本化されたこと等見直されたポイントや保健師の保健活動の基本的な方向性について話された。その中で、保健衛生部門における地区担当制を推進する体制整備の必要性と、人材育成や技術的・専門的側面から指導・調整を行う存在として統括的な役割を担う保健師の配置が住民の健康保持増進を図るための効果的な活動の推進につながることを強調された。また、指針を踏まえて都道府県と市町村の意思疎通の向上を図ること、ソーシャルキャピタルの活用や地域・職域連携により、健診・がん検診の受診率を向上させる取り組みの推進への期待も寄せられた。

◆特別講演

高知県中央東福祉保健所長の田上豊資氏から「保健師活動指針改正等を踏まえて保健師に期待すること」と題して講演をいただいた。

現状の保健師活動が、表出された健康課題に対し、「縦割り」で「直接的」、かつ制度にあてはめた「画一的な個人サービス」を提供する業務が増加しており、「求めがなくても必要などころに関わる保健師固有の機能」や「地域に入り込み、根幹から課題を解決する地区活動」、「生活や暮らしを的確に捉え、その中に入り健康課題を把握しソーシャルキャピタルを構築・推進する」という保健師活動の本質が失われてきているという現状への警鐘を改めて鳴らされた。理念と現実の乖離を縮めるためには、地域に責任を持ち、積極的に地域に出かけ、住民との協働の中で組織的に政策提言をしていくことが必要であること、また、地域に出かける時間をつくるため地区診断により課題を整理し、業務のスリム化を図ることや住民力、地域力を生かすことも必要であると話された。

◆シンポジウム

「新たな地域の保健師の保健活動指針を踏まえ～これからの保健師活動をどのように考え、展開していくか～」をテーマとして、鳥取大学医学部保健学科教授松浦治代氏を座長に、3人のシンポジストが保健師活動指針に基づいた活動実践を紹介された。島根

県雲南市の上村博子氏は統括保健師として保健師の人材育成の体制整備を果たした役割の実際を、北九州市保健福祉局の清田啓子氏は、部署横断的に連携・協働した保健師活動の推進や地区担当制の推進、またそれらを実施するにあたっての統括保健師の果たした役割について、青森県健康福祉部の大鰐恭子氏は青森県における保健師活動指針策定と見直しを行う中で果たした都道府県の役割と取り組みの実際について報告された。いずれも、「新たな地域の保健師の保健活動指針」を踏まえた先進的な実践報告であり、大変参考になった。

◆ 総会議事

総会は、131名の代議員出席と122名の委任状により、規定代議員数の2分の1以上で成立した。

議事では、まず第1～3号議案により、平成24年度事業報告及び収入支出決算報告が行われ承認された。平成24年度東日本大震災支援活動では、被災地の支援などの経過報告と、その功績について、厚生労働大臣から本会に感謝状の贈呈があったことの報告があった。

次に、第4～6号議案により、平成25年度の事業経過報告、収入支出補正予算(案)、平成26年度全国保健師長会活動方針(案)・事業計画(案)の提案があり、それぞれ承認された。

平成26年度の活動テーマとして「社会の課題に向き合う保健師活動の展開―公衆衛生看護活動の原点に立ち返り、命と健康と生活を守る活動を目指し―」を掲げ、1. 保健師の地域保健福祉分野における専門性を確立する 2. ブロック、支部活動の強化 3. 息の長い被災地支援を実施 4. 会員数の拡大の4点を活動方針とした。

続いて、第7号議案の平成26年度収入支出予算(案)では、事業費のうち被災地支援として、保健師の軌跡を調査研究費に計上すること、また、新たに部会・委員会費の中に学会・学術集会に関する委員会の設置に関する予算を計上する等の提案があり承認された。

次に、平成26年度役員・推薦委員の改選が行われた。まず、平成26年度新ブロック理事の選出について執行部から説明があり、承認された。続いて、平成26年度全国保健師長会役員改選が行われ、会長に鎌田久美子氏(現常任理事)、副会長に佐川きよみ氏(現副会長)、監事に谷戸典子氏の他、3名の推薦委員候補者が満場一致で選出され、選挙で承認された。

引き続き、平成25年度の各ブロック・部会・委員会からの事業経過報告があり、最後に、会長による常任理事の指名、新旧役員紹介、役員を代表して新旧会長の挨拶を経て、全ての議事が終了した。

最後に、次期開催県である岩手県の赤羽さなえ支部長の挨拶をいただき、総会は無事終了した。

議事録署名人

宮崎 裕子



小室 たか恵

